

# 病院の経営分析参考指標(平成23年度決算分)の概要

## 1. 一般病院

### (1) 機能性の状況

一般病院の有効集計対象839施設の機能性の状況は次のとおりです。

- ① 平均病床数は184.5床、病床利用率は0.5ポイント減の80.9%、平均在院日数は0.5ポイント減の21.0日となりました。また入院外来比は1.91、新患率は10.4%となりました。
- ② 病床1床当たり医業収益は18,137千円(前年度比2.9%増)、患者1人1日当たり医業収益は入院で42,489円(同3.4%増)、外来で10,555円(同3.2%増)となりました。
- ③ 従事者数の状況については、1施設当たり従事者数では医師(常勤)21.4人、同(非常勤)5.2人、看護師等144.3人となり、患者100人当たり従事者数では医師(常勤)8.8人、同(非常勤)2.1人、看護師等59.1人となりました。1施設当たり従事者数の合計及び患者100人当たり従事者数の合計はいずれも増加しました。

区 分		一般病院				
		平成22年度	平成23年度	増減(%ポイント)	対前年増減率(%)	
施設数(施設)		804	839	—	—	
平均病床数(床)		186.7	184.5	▲ 2.2	▲ 1.2	
病床利用率(%)		81.4	80.9	▲ 0.5	▲ 0.6	
平均在院日数(日)		21.5	21.0	▲ 0.5	▲ 2.3	
入院外来比		1.89	1.91	0.02	1.1	
新患率(%)		10.5	10.4	▲ 0.1	▲ 1.0	
1日平均患者数(人)	入院	152.0	149.2	▲ 2.8	▲ 1.8	
	外来	287.6	284.7	▲ 2.9	▲ 1.0	
病床1床当たり医業収益(千円)		17,627	18,137	510	2.9	
患者1人1日当たり 医業収益(円)	入院	41,102	42,489	1,387	3.4	
	(うち室料差額)	(1,020)	(1,021)	1	0.1	
	外来	10,231	10,555	324	3.2	
1施設当たり 従事者数(人)	医師	常勤	21.2	21.4	0.2	0.9
		非常勤	5.0	5.2	0.2	4.0
	看護師・准看護師・看護補助者		142.2	144.3	2.1	1.5
	その他		101.2	104.2	3.0	3.0
	計		269.7	275.0	5.3	2.0
患者規模100人 当たり従事者数(人)	医師	常勤	8.6	8.8	0.2	2.3
		非常勤	2.0	2.1	0.1	5.0
	看護師・准看護師・看護補助者		57.4	59.1	1.7	3.0
	その他		42.6	44.5	1.9	4.5
	計		110.5	114.4	3.9	3.5

(2) 収支の状況

一般病院の収支の状況は次のとおりです。

① 収益構造として、総収益に占める医業収益の割合は97.5%、医業収益に占める入院収入の割合は69.3%、同外来収入の割合は26.6%でした。

② 医業収益に対する費用の割合は、人件費50.8%(前年度比0.2ポイント増)、医療材料費21.2%(同0.5ポイント増)、給食材料費1.8%(同増減なし)、経費18.0%(同0.4ポイント減)となりました。

③ 利益の状況については、医業収益対医業利益率が3.4%(前年度比0.3ポイント減)、経常収益対経常利益率が3.3%(同0.1ポイント減)、収益率が2.9%(同0.1ポイント増)となりました。

区 分			一般病院				
			平成22年度	平成23年度	増減(%ポイント)	対前年増減率(%)	
収支の状況	収益	総構成比(%)	医業収益	97.3	97.5	0.2	0.2
			医業外収益	2.0	2.0	0.0	0.0
			特別利益	0.7	0.5	▲ 0.2	▲ 28.6
	収益	医業収益構成比(%)	入院収入	69.3	69.3	0.0	0.0
			(うち室料差額)	(1.7)	(1.7)	0.0	0.0
			外来収入	26.4	26.6	0.2	0.8
			その他の医業収入	4.3	4.1	▲ 0.2	▲ 4.7
	費用	医業収益に対する費用の割合(%)	人件費	50.6	50.8	0.2	0.4
			医療材料費	20.7	21.2	0.5	2.4
			給食材料費	1.8	1.8	0.0	0.0
			(入院患者1人1日当たり)(円)	(1,094)	(1,087)	▲ 7	▲ 0.6
			経費	18.4	18.0	▲ 0.4	▲ 2.2
			減価償却費	4.7	4.8	0.1	2.1
計			96.3	96.6	0.3	0.3	
損益分岐点比率(%)			96.6	96.8	0.2	0.2	
経常収益対支払利息率(%)			1.2	1.0	▲ 0.2	▲ 16.7	
医業収益対医業利益率(%)			3.7	3.4	▲ 0.3	▲ 8.1	
経常収益対経常利益率(%)			3.4	3.3	▲ 0.1	▲ 2.9	
収益率{1-(総費用/総収益)}×100(%)			2.8	2.9	0.1	3.6	
従事者1人当たり年間医業収益(千円)			12,201	12,168	▲ 33	▲ 0.3	
労働生産性(千円)			6,626	6,596	▲ 30	▲ 0.5	
従事者1人当たり人件費(千円)			6,170	6,186	16	0.3	
労働分配率(%)			93.1	93.8	0.7	0.8	

(注1) 全病床に占める一般病床の割合が50%を超える病院を「一般病院」としています。

(注2) 医育機関附属病院及び医師会立病院は含まれていません。

(注3) 「1施設当たり従事者数」、「患者規模100人当たり従事者数」、「従事者1人当たり年間医業収益」、「労働生産性」及び「従事者1人当たり人件費」は、常勤従事者数(非常勤従事者の常勤換算後の従事者数を含む)により算出しています。

(注4) 給食材料費には、委託給食費を含んでいます。

(注5) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合があります。

## 2.療養型病院

### (1)機能性の状況

療養型病院の有効集計対象641施設の機能性の状況は次のとおりです。

- ① 平均病床数は145.1床、病床利用率は0.5ポイント減の92.5%、平均在院日数は0.4ポイント減の102.5日となりました。  
また入院外来比は0.57、新患率は7.4%となりました。
- ② 病床1床当たり医業収益は9,311千円で前年度比2.4%増、患者1人1日当たり医業収益は入院で21,502円(同1.8%増)、  
外来で8,650円(同3.0%増)となり、いずれも増加しました。
- ③ 従事者数の状況については、1施設当たり従事者数では医師(常勤)5.0人、同(非常勤)2.6人、看護師等89.4人となり、  
患者100人当たり従事者数では医師(常勤)3.1人、同(非常勤)1.6人、看護師等56.0人、その他33.5人となりました。  
患者100人当たり従事者数について、医師は前年度とほぼ同じ水準ですが、看護師等とその他は増加しました。

区 分		療養型病院				
		平成22年度	平成23年度			
				増減(%ポイント)	対前年増減率(%)	
施設数(施設)		634	641	—	—	
平均病床数(床)		147.3	145.1	▲ 2.2	▲ 1.5	
病床利用率(%)		93.0	92.5	▲ 0.5	▲ 0.5	
平均在院日数(日)		102.9	102.5	▲ 0.4	▲ 0.4	
入院外来比		0.57	0.57	0.00	0.0	
新患率(%)		7.6	7.4	▲ 0.2	▲ 2.6	
1日平均患者数(人)	入院	137.0	134.2	▲ 2.8	▲ 2.0	
	外来	77.8	76.2	▲ 1.6	▲ 2.1	
病床1床当たり医業収益(千円)		9,092	9,311	219	2.4	
患者1人1日当たり 医業収益(円)	入院	21,112	21,502	390	1.8	
	(うち室料差額)	(342)	(362)	20	5.8	
	外来	8,399	8,650	251	3.0	
1施設当たり 従事者数(人)	医師	常勤	5.0	5.0	0.0	0.0
		非常勤	2.6	2.6	0.0	0.0
	看護師・准看護師・看護補助者		90.0	89.4	▲ 0.6	▲ 0.7
	その他		50.4	52.5	2.1	4.2
	計		148.0	149.5	1.5	1.0
患者規模100人 当たり従事者数(人)	医師	常勤	3.1	3.1	0.0	0.0
		非常勤	1.6	1.6	0.0	0.0
	看護師・准看護師・看護補助者		55.3	56.0	0.7	1.3
	その他		31.6	33.5	1.9	6.0
	計		91.5	94.3	2.8	3.1

## (2) 収支の状況

療養型病院の収支の状況は次のとおりです。

- ① 収益構造として、総収益に占める医業収益の割合は97.7%、医業収益に占める入院収入の割合は78.2%、同外来収入の割合は14.1%となりました。
- ② 医業収益に対する費用の割合では、人件費56.1%(前年度比0.3ポイント増)、医療材料費9.5%(同0.1ポイント増)、給食材料費3.7%(同増減なし)、経費20.0%(0.2ポイント減)となりました。
- ③ 利益の状況については、医業収益対医業利益率が6.7%(前年度比増減なし)、経常収益対経常利益率が7.1%(同0.3ポイント増)、収益率が6.5%(同0.2ポイント増)となり、いずれも上昇しました。

区 分			療養型病院			
			平成22年度	平成23年度	増減(%ポイント)	対前年増減率(%)
収支の状況	収益	総構成収益比(%)	97.6	97.7	0.1	0.1
		医業収益	2.0	2.1	0.1	5.0
		特別利益	0.4	0.3	▲ 0.1	▲ 25.0
	医業収益	入院収入	78.8	78.2	▲ 0.6	▲ 0.8
		(うち室料差額)	(1.3)	(1.3)	0.0	0.0
		外来収入	14.1	14.1	0.0	0.0
		その他の医業収入	7.1	7.8	0.7	9.9
	費用	医する収益費用00の割合(%)	55.8	56.1	0.3	0.5
		医療材料費	9.4	9.5	0.1	1.1
		給食材料費	3.7	3.7	0.0	0.0
		(入院患者1人1日当たり)(円)	(1,003)	(1,007)	4	0.4
		経費	20.2	20.0	▲ 0.2	▲ 1.0
		減価償却費	4.1	4.1	0.0	0.0
計		93.3	93.3	0.0	0.0	
損益分岐点比率(%)			93.3	93.2	▲ 0.1	▲ 0.1
経常収益対支払利息率(%)			1.1	1.0	▲ 0.1	▲ 9.1
医業収益対医業利益率(%)			6.7	6.7	0.0	0.0
経常収益対経常利益率(%)			6.8	7.1	0.3	4.4
収益率{1-(総費用/総収益)}×100(%)			6.3	6.5	0.2	3.2
従事者1人当たり年間医業収益(千円)			9,048	9,036	▲ 12	▲ 0.1
労働生産性(千円)			5,653	5,672	19	0.3
従事者1人当たり人件費(千円)			5,045	5,069	24	0.5
労働分配率(%)			89.3	89.4	0.1	0.1

(注1) 全病床に占める療養病床の割合が50%を超える病院を「療養型病院」としています。

(注2) 医育機関附属病院及び医師会立病院は含まれていません。

(注3) 「1施設当たり従事者数」、「患者規模100人当たり従事者数」、「従事者1人当たり年間医業収益」、「労働生産性」及び「従事者1人当たり人件費」は、常勤従事者数(非常勤従事者の常勤換算後の従事者数を含む)により算出しています。

(注4) 給食材料費には、委託給食費を含んでいます。

(注5) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合があります。

### 3.精神科病院

#### (1)機能性の状況

精神科病院の有効集計対象325施設の機能性の状況は次のとおりです。

- ① 平均病床数は279.4床、病床利用率は0.6ポイント減の92.4%、平均在院日数は4.9ポイント減の292.9日となりました。  
また入院外来比は0.32、新患率は2.5%となりました。
- ② 病床1床当たり医業収益は6,024千円で前年度比0.8%増、患者1人1日当たり医業収益は入院で15,009円(同1.0%増)、  
外来で8,977円(同0.9%増)となりました。
- ③ 従事者数の状況については、1施設当たり従事者数では医師(常勤)7.2人、同(非常勤)2.6人、看護師等130.6人となり、  
患者100人当たり従事者数では医師(常勤)2.5人、同(非常勤)0.9人、看護師等45.7人となりました。

区 分		精神科病院				
		平成22年度	平成23年度			
				増減(%ポイント)	対前年増減率(%)	
施設数(施設)		320	325	—	—	
平均病床数(床)		279.5	279.4	▲0.1	▲0.0	
病床利用率(%)		93.0	92.4	▲0.6	▲0.6	
平均在院日数(日)		297.8	292.9	▲4.9	▲1.6	
入院外来比		0.32	0.32	0.00	0.0	
新患率(%)		2.6	2.5	▲0.1	▲3.8	
1日平均患者数(人)	入院	260.0	258.1	▲1.9	▲0.7	
	外来	81.9	82.6	0.7	0.9	
病床1床当たり医業収益(千円)		5,974	6,024	50	0.8	
患者1人1日当たり 医業収益(円)	入院	14,866	15,009	143	1.0	
	(うち室料差額)	(181)	(181)	0	0.0	
	外来	8,900	8,977	77	0.9	
1施設当たり 従事者数(人)	医師	常勤	7.2	7.2	0.0	0.0
		非常勤	2.6	2.6	0.0	0.0
	看護師・准看護師・看護補助者		131.5	130.6	▲0.9	▲0.7
	その他		52.3	53.1	0.8	1.5
	計		193.5	193.6	0.1	0.1
患者規模100人 当たり従事者数(人)	医師	常勤	2.5	2.5	0.0	0.0
		非常勤	0.9	0.9	0.0	0.0
	看護師・准看護師・看護補助者		45.8	45.7	▲0.1	▲0.2
	その他		18.6	19.0	0.4	2.2
	計		67.8	68.2	0.4	0.6

## (2) 収支の状況

精神科病院の収支の状況は次のとおりです。

- ① 収益構造として、総収益に占める医業収益の割合は96.0%、医業収益に占める入院収入の割合は84.2%、同外来収入の割合は12.5%となりました。
- ② 医業収益に対する費用の割合では、人件費59.8%(前年度比0.1ポイント減)、医療材料費8.0%(0.1ポイント増)、給食材料費5.2%(0.1ポイント増)、経費が18.4%(0.6ポイント増)となり、経費の割合が増加しました。
- ③ 利益の状況については、医業収益対医業利益率が3.8%(前年度比0.5ポイント減)、経常収益対経常利益率が4.8%(同増減なし)、収益率が4.4%(同0.3ポイント増)となりました。

区 分			精神科病院				
			平成22年度	平成23年度	増減(%ポイント)	対前年増減率(%)	
収支の状況	収益	総構成収益比(%)	医業収益	96.7	96.0	▲ 0.7	▲ 0.7
			医業外収益	2.8	3.3	0.5	17.9
			特別利益	0.5	0.7	0.2	40.0
		医業収益構成比(%)	入院収入	84.5	84.2	▲ 0.3	▲ 0.4
			(うち室料差額)	(1.0)	(1.0)	0.0	0.0
			外来収入	12.4	12.5	0.1	0.8
	費用	医業収益に占める費用の割合(%)	その他の医業収入	3.1	3.2	0.1	3.2
			人件費	59.9	59.8	▲ 0.1	▲ 0.2
			医療材料費	7.9	8.0	0.1	1.3
			給食材料費	5.1	5.2	0.1	2.0
			(入院患者1人1日当たり)(円)	(901)	(921)	20	2.2
			経費	17.8	18.4	0.6	3.4
			減価償却費	4.9	4.8	▲ 0.1	▲ 2.0
計	95.7	96.2	0.5	0.5			
損益分岐点比率(%)			96.3	96.8	0.5	0.5	
経常収益対支払利息率(%)			1.2	1.1	▲ 0.1	▲ 8.3	
医業収益対医業利益率(%)			4.3	3.8	▲ 0.5	▲ 11.6	
経常収益対経常利益率(%)			4.8	4.8	0.0	0.0	
収益率{1-(総費用/総収益)}×100(%)			4.1	4.4	0.3	7.3	
従事者1人当たり年間医業収益(千円)			8,628	8,695	67	0.8	
労働生産性(千円)			5,545	5,533	▲ 12	▲ 0.2	
従事者1人当たり人件費(千円)			5,171	5,202	31	0.6	
労働分配率(%)			93.2	94.0	0.8	0.9	

(注1) 全病床に占める精神病床の割合が80%を超える病院を「精神科病院」としています。

(注2) 医育機関附属病院及び医師会立病院は含まれていません。

(注3) 「1施設当たり従事者数」、「患者規模100人当たり従事者数」、「従事者1人当たり年間医業収益」、「労働生産性」及び「従事者1人当たり人件費」は、常勤従事者数(非常勤従事者の常勤換算後の従事者数を含む)により算出しています。

(注4) 給食材料費には、委託給食費を含んでいます。

(注5) 数値は四捨五入のため、内訳の合計が合わない場合もあります。

## 経営諸比率(病院)

経営指標	算 式	説 明
病床利用率	$\frac{\text{1日平均入院患者数}}{\text{平均許可病床数}} \times 100$	施設の機能によって望ましい比率は異なります。また、平均在院日数との関係から適否を判断することが必要です。
平均在院日数	$\frac{\text{延入院患者数}}{(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数}) \times 1/2}$	診療科目によってかなり異なりますが、同じような診療科の病医院との比較では、これが短いほど機能が高いと推察されます。
入院外来比	$\frac{\text{1日平均外来患者数}}{\text{1日平均入院患者数}}$	病医院の性格を表すなど重要な意味を持っています。診療科目及び病床規模によってかなり異なりますが、同種・同規模の病医院との比較では、一般的に高いほどよいといえます。
新患率	$\frac{\text{新来患者数}}{\text{延外来患者数}} \times 100$	外来の動向を見極める指標です。外来患者数が伸びており、かつ、この率が高いほどよいといえます。
病床1床当たり医業収益	$\frac{\text{医業収益}}{\text{平均許可病床数}}$	病院の性格により、かなり異なります。病床利用率、外来患者数や診療内容、サービスの程度との関連で適否を判断します。
入院患者1人1日当たり入院収益	$\frac{\text{入院診療収益}}{\text{延入院患者数}}$ <p>※延入院患者数には当日退院患者を含まない。</p>	収益性の指標とも考えられますが、むしろ診療内容を判断するための指標で、看護レベル、手術件数などとの関連でその適否を判断します。また、診療行為別に分析してみるのが大切です。
外来患者1人1日当たり外来収益	$\frac{\text{外来診療収益}}{\text{延外来患者数}}$	診療行為別に分析し、院外処方の有無、投薬日数、1日平均外来患者数との関連もみながら適否を判断する必要があります。
患者規模100人当たり従事者数	$\frac{\text{年間平均従事者数}}{(\text{1日平均入院患者数} + \text{1日平均外来患者数} \times 1/3)} \times 100$ <p>※ただし、調理員及び栄養士については、</p> $\frac{\text{年間平均従事者数}}{\text{1日平均入院患者数}} \times 100$	取扱患者数に対する従業者数の適正性については、診療機能、サービスの程度を勘案しながら職種別に判断する必要があります。
人件費率	$\frac{\text{人件費}}{\text{医業収益}} \times 100$	職種別人員、給与水準、平均年齢等から適正性を判断します。  (注) 役員報酬は経費に含めています。
医療材料費率	$\frac{\text{医療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	患者1人1日当たり医療材料費、医薬品と診療材料費との区分、診療科、診療機能、院外処方の有無等との関連で、適正性を判断します。

## 経営諸比率(病院)

経営指標	算 式	説 明
給食材料費率	$\frac{\text{給食材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	入院患者1人1日当たり給食材料費との関連で、適正性を判断します。
経費率	$\frac{\text{経 費}}{\text{医業収益}} \times 100$ <p>※経費＝医業費用－(人件費+材料費+減価償却費)</p>	検査等の外注委託費、リース料、地代家賃等の適正性と人材育成等の研究研修費の継続性等から適正性を判断します。
減価償却費率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{医 業 収 益}} \times 100$	償却資産の構成割合及びそれぞれの経過年数に留意しつつ、その適正性を判断します。
経常収益対支払利息率	$\frac{\text{支払利息}}{\text{経常収益}} \times 100$	借入残高、借入条件等から支払利息の適正性を判断します。
損益分岐点の収益 (損益分岐点比率)	$1 - \frac{\text{固定費}}{\text{変動費} + \text{医業収益}}$ <p>(注) 変動費＝材料費＋経費のうち変動要素のあるもの(検査外注費等) 固定費＝医業費用－変動費＋支払利息</p> $\left[ \text{損益分岐点比率} = \frac{\text{損益分岐点収益}}{\text{医 業 収 益}} \times 100 \right]$	<p>利益と損失とが分かれるところの収益ポイントを算出します。損益分岐点はいわば採算点(費用回収点)のことで、実際の医業収益がその点からどのくらい上回っているかによって経営余力を知ることができます。</p> <p>病医院経営の合理化や計画性が求められている現在、今後の医療費改定、人件費の増加、設備投資等の経営諸条件の変化を見込んでの採算性を予測するうえで、この損益分岐点手法は効果的です。</p>
従事者1人当たり 年間医業収益	$\frac{\text{医 業 収 益}}{\text{年間平均従事者数}}$	病医院の種類、規模等によって異なりますが、従事者1人当たりの年間給与費との比較分析も必要です。
労働生産性	$\frac{\text{付加価値額}}{\text{年間平均従事者数}}$ <p>※付加価値額＝医業収益－(材料費+経費+減価償却費) 粗付加価値額＝医業収益－(材料費+経費)</p>	従事者1人がどれだけの付加価値を生み出したかをみる指標です。労働生産性が高ければ、各々の従事者が効率よく価値を生み出し、円滑な運営管理が行われているといえます。
従事者1人当たり 人件費	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{年間平均従事者数}}$	いわゆる給与水準であり、労働意欲やサービス内容に関係する一方、生産性に対応していなければ経営の安定性を損なうこととなります。したがって、従事者1人当たり年間医業収益や労働生産性との関係において判断するとともに、給与水準の他に、平均年齢、職種別従事者数等によっても異なることに留意する必要があります。

## 経営諸比率(病院)

経営指標	算 式	説 明
労働分配率	$\frac{\text{人件費}}{\text{付加価値額}} \times 100$	付加価値が人件費にどれだけ分配されているかをみることで、経営の効率性を把握します。人件費を支払原資（付加価値額）のなかで収めるのは当然のことですが、質と意欲に関係するので、低ければ良いというものではありません。
医業収益対 医業利益率	$\frac{\text{医業利益}}{\text{医業利益}} \times 100$	本業である医療活動そのものから得られた利益を表す指標です。
経常収益対 経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{経常収益}} \times 100$	医業利益に受取利息や支払利息その他の収入支出を加えた、病医院に通常発生している利益を表す指標です。施設の収益性を判断するうえで非常に重要です。
収益率	$\left( 1 - \frac{\text{総費用}}{\text{総収益}} \right) \times 100$	医業外収支、特別収支を含めた最終的な利益を表す指標です。一般的に黒字・赤字の判断基準となっています。

※ 常勤換算は次の式で算定しています。

当該職務にかかる全非常勤職員の1週間の総勤務時間数

当該職務にかかる常勤職員が1週間に勤務すべき時間数